



ザンバーン通信

女子学生 インタビュー

理工系というと男子が多いイメージかと思いますが、キラリと輝く女子学生も沢山います！理工系大学に進学した理由や室蘭工業大学で学んでいることなどについてインタビューした内容をご紹介します。「理工系って面白そう!」、「私もやってみたい」と感じる中高生が一人でも増えることを期待しています。

情報セキュリティへの目覚め

子どもの頃からパソコンでウェブサイトの閲覧や音楽を聴くことが好きだったので、情報工学に進もうと決めるきっかけになった出来事が中高生の頃にありました。大手の教育出版会社の顧客情報が流出したことがあり、私もその被害に遭いました。このことで情報セキュリティの重要性に気づき、大学でこの分野を学び、情報セキュリティの強化に貢献したいと思うようになりました。室蘭工業大学は、工学系分野の専門性が高いイメージがありましたし、高校の先生や家族のアドバイス等を受けて、本学の情報電子工学系学科（2018年当時）に入学しました。

女子学生が少ないがゆえの連帯感

入学以前から、本学の女子学生の少なさについて聞いてはいたのですが、入学式で回りを見渡して、改めてその少なさに驚きました。グループワークなどの時は私一人だけ女子ということが多く、気後れすることもありました。ただ、女子学生が少数であるがゆえに、女子同士の連帯感があります。以前は新入生向けのGirl's Tea Party（女子学生のみで開催される交流会）があったのですが、コロナ禍の現在は、SNSを通じて新入生同士コミュニケーションを取ったりしています。

留学生の多い研究室

私の所属する研究室は留学生が半数以上を占めているという特徴があります。

そのため日本人学生と留学生との間でのコミュニケーションがなかなかうまくいかないこともあります。日本語と英語の両方を織り交ぜながら会話をしていますが、それでもうまく伝わらないときがあります。そんな時はお菓子を交換するなどして、お互いに打ち解けてきました。

卒業研究 頭一つ抜きん出るために

世の中にIoTやクラウド系のサービスが普及する中で、利用者側のプライバシーを守る為に、通信を監視するシステムを作りたくて。今は人工知能（AI）を活用したハッカーの侵入検知システムの性能向上に関する研究をしています。具体的には従来のAIによるハッカーの侵入を検知するプログラムに加えて、AIが不正と判断した根拠となる要因とともに示す「説明可能なAI」という新しいAI技術を用いています。「説明可能なAI」を用いた研究自体は国内でも行われていますが、セキュリティ分野での運用は国内の大学の研究では聞いたことがなく、参照できる先行研究は海外で開発されたプログラムばかりなので、今は英語で論文を読んでいます。卒業研究テーマを選ぶとしたら、頭一つ抜きん出られるものがいいですね。他の人が選ばないようなテーマを突き詰めたいです。

忙しいけれども充実した キャンパスライフ

最近は、朝に大学構内でアルバイト、午後は研究室で作業するコアタイム、夕方またアルバイトをしています。学業に



情報電子工学系学科
情報システム学コース4年生
沖 綾華さん

アルバイトにと忙しいですが、規則正しい健康的な生活を送っています。卒業後は本学の大学院に進学することが決まりました。研究テーマが難しい分、2年後を見据えて計画を立てながら卒業研究に取り組んでいます。情報セキュリティはこれから伸びていく分野だと思います。IT業界はほかの産業と比べても移り変わりや競争は激しいですが、最先端を走れる分野なのでやりがいを感じています。



移り変わりや競争は激しいが、最先端を走れる分野なのでやりがいを感じる



■ 教職員のためのダイバーシティセミナー2021 ■

「家族から考える男女平等参画—男性の育児・家事と女性の就労に注目して—」

講師：石井クンツ昌子氏（お茶の水女子大学 理事・副学長（国際交流・男女共同参画担当））

日時：令和3年9月13日（月）10:30～12:00

開催方法：オンライン（Zoomウェビナー）

対象：全教職員、大学・研究機関の研究者、技術者及び職員、その他ダイバーシティに関心のある方

今年度のダイバーシティセミナーはオンライン（Zoomウェビナー）での開催となり、お茶の水女子大学 理事・副学長（国際交流・男女共同参画担当）の石井クンツ昌子先生をお招きし、「家族から考える男女平等参画—男性の育児・家事と女性の就労に注目して—」と題してご講演いただきました。

前半ではコロナ下で顕在化した日本の男女共同参画の課題と男女の意識差について、後半では世代間での男性の家庭内役割に対する認識の変化と日本の現状についてや父親の育児・家事参加がもたらす効果などについて、長年の研究に基づく知見からお話いただきました。

子育てする男性が特別視されず「育メン」という言葉でもてはやされることのない社会を目指すことや、ジェンダー平等参画推進の重要性について理解を深めました。

当日は学外の方も含めて計46名の参加があり、参加者からは、「自分はもう現役世代ではないけれど、今の世代やこれからの世代の人たちの産休・育休に肯定的でいられる知識を得られた。」「男性の育児休業取得率があがらない、また取得しても日数が短いというのは、どの大学も抱えている課題であり、多くの大学で事例を共有できるとよいと思った。」などの感想が寄せられました。

新型コロナウイルスと家庭内役割

1. リンナイの意識調査（コロナ以前と比較）
（2020年10月、調査期間：10月1日～10月10日）
 - ・育児 男性 2.22時間 → 3.28時間（+1.06）
 - 女性 8.94時間 → 10.01時間（+1.07）
 - ・家事 男性 1.65時間 → 2.35時間（+0.69）
 - 女性 4.70時間 → 5.29時間（+0.59）
2. 日本労働組合総連合会の意識調査
（2020年10月、20～59歳の働く者 1000名）
「産後2年以内の産後休業中、女性の8割が「子どもの面倒をみるのが負担」」
- ・「コロナで子育てにかかわる時間が増えた」女性では51.8%、男性では43.8%



■ 附属図書館共催 英語論文セミナー ■

「アクセプトへの第一歩！英語論文執筆のA to Z

：英文校正のプロが具体的な注意点を解説」

講師：サザンクロス株式会社 Garry Heterick 代表、中西 綾子 氏

日時：令和3年7月7日（水）～7月8日（木）

【日本語での講義】7月7日（水）初級者向け 13:30～14:30
中級者向け 15:00～16:30

【英語での講義】7月8日（木）Beginner 13:30～14:30
Intermediate 15:00～16:30

開催方法：オンライン（Zoom）

対象：若手研究者、大学院生

共催：附属図書館

日本語	7/7 (Wed)	初級編	13:30-14:30
		中級編	15:00-16:30
英語	7/8 (Thu)	Beginner	13:30-14:30
		Intermediate	15:00-16:30

附属図書館と共同で開催する、英語論文セミナー「アクセプトへの第一歩！英語論文執筆のA to Z：英文校正のプロが具体的な注意点を解説」を令和3年7月7日（水）～7月8日（木）の2日間オンラインにて開催しました。サザンクロス株式会社代表の Garry Heterick 氏、同社の 中西 綾子 氏を講師にお招きし、英語論文を執筆する際のポイントや留意点について英語及び日本語で解説していただきました。英語版と日本語版でそれぞれ初級者向け・中級者向けの計4回のセミナーを行い、両日で延べ81名が参加し、オンラインでの開催も好評のうちに終了することができました。

ダイバーシティ通信 第14号（2021年11月）

国立大学法人 室蘭工業大学 男女共同参画推進室 女性研究者支援ユニット（UFR）
〒050-8585 北海道室蘭市水元町27番1号 TEL：0143-46-5018 / FAX：0143-46-5032
E-mail：ufr@mmm.muroran-it.ac.jp URL：https://www.muroran-it.ac.jp/ge_ufr/

本誌および大学の男女共同参画等についての
ご意見・ご要望をUFRまでぜひお寄せください。

大学の男女共同参画推進を応援して下さる個人・企業からのご寄付を受け付けております。
詳しい手続きは下記URLをご覧ください。
https://www.muroran-it.ac.jp/ge_ufr/kifu.html
ぜひご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

男女共同参画推進室
Office for Promotion of Gender Equality

女性研究者
支援ユニット
Unit for Female Researchers